

平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書

1. 概要（1ページ以内）

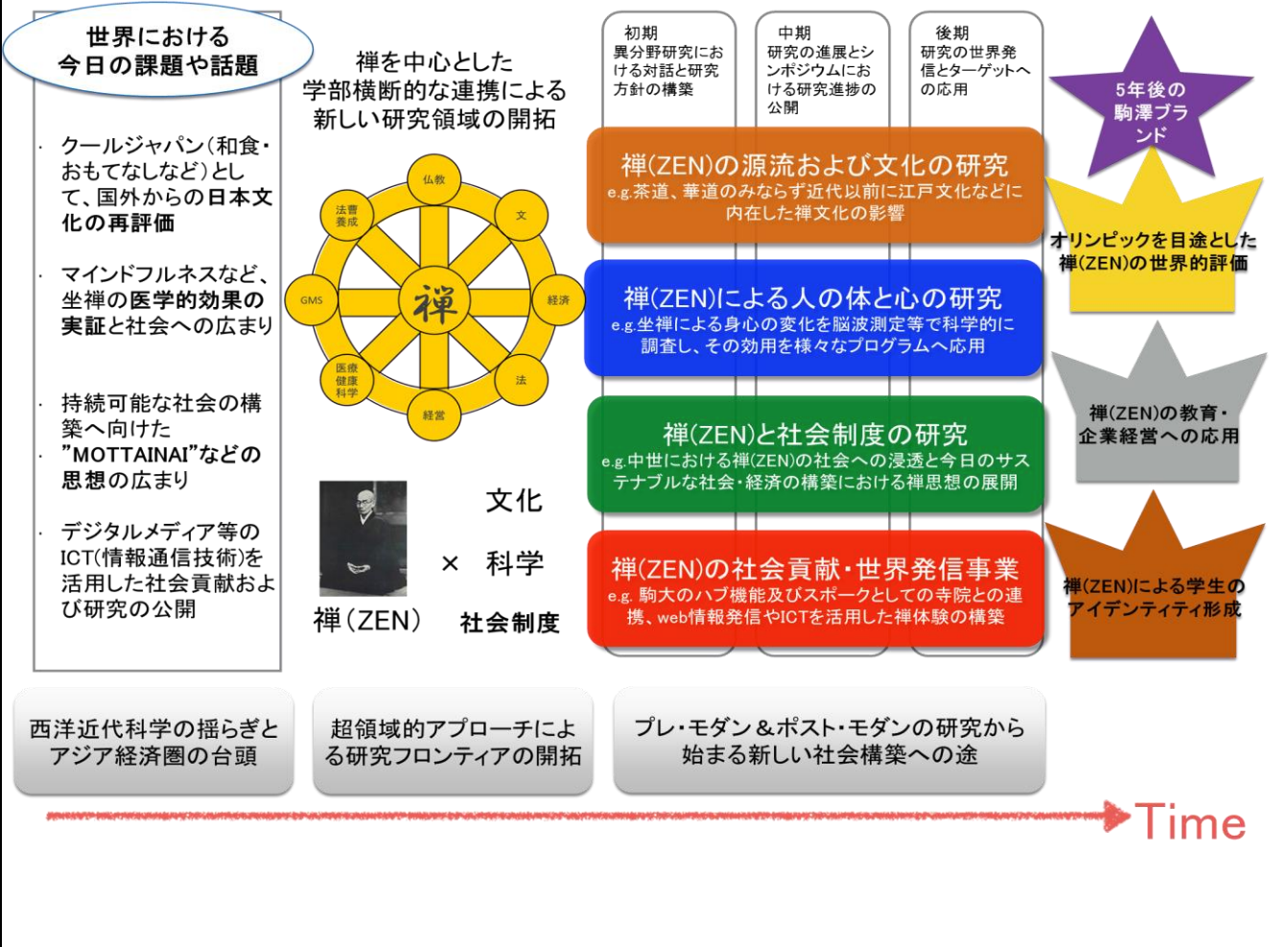
学校法人番号	131021	学校法人名	駒澤大学		
大学名	駒澤大学				
事業名	『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	13584人
参画組織	7学部（仏教・文・経済・法・経営・医療健康科・グローバル・メディア・スタディーズ）、1研究科（法曹養成）				
審査希望分野	人文・社会系	○	理工・情報系	生物・医歯系	
事業概要	現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、①現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、②多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、③坐禅の身心への影響を科学的に検証し、④全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。				

イメージ図

<事業の目的>

- ① 禅（ZEN）の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う。
- ② 禅（ZEN）の研究を、超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する。
- ③ 禅（ZEN）思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する。
- ④ 上記の①②③を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する全学的な組織（禅研究センター）を設置する。

『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業



2. 事業内容（2ページ以内）

（1）事業目的**<事業の目的>**

本事業の目的として、次の4つを掲げる。

- ① 禅（ZEN）の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、**新たな提言**を行う。
- ② 禅（ZEN）の研究を、超領域的に行うことを通し、**新たな視座を獲得**する。
- ③ 禅（ZEN）思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を**科学的に検証**する。
- ④ 上記の①②③を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する**全学的な組織（禅研究センター）を設置**する。

<自大学、外部環境、社会情勢等に係る現状・課題の分析内容と研究テーマとの関連>**◎自大学に係る現状・課題の分析内容と研究テーマとの関連**

駒澤大学は禅宗の一派である曹洞宗の学寮を起源とした研究機関であり、「**仏教**」の教えと「**禅**」の精神を**建学の理念**としている。研究テーマと関連する成果として、大本山永平寺の『永平寺史』や『永平寺史料全書』の編纂、新纂禅籍目録の発刊(1964)や、本学図書館所蔵の禅籍善本図録の作成等があげられる。現代人が抱える「心」の問題を解決するため、禅（ZEN）の研究と異なる専門領域の研究を超領域的に行い、新たな視座を獲得する。

◎外部環境、社会情勢等に係る現状・課題の分析内容と研究テーマとの関連

和食のユネスコ無形文化遺産登録など、「クールジャパン」として日本文化が海外からも高く評価されている。とりわけZENは、**マインドフルネス**の流行や**MOTTAINAI**の言葉に代表される持続可能な社会の形成等に大きな影響を与えている。また、アップルの創業者であるスティーブ・ジョブズ氏が禅（ZEN）に傾倒していたなど、海外におけるZENへの関心は非常に高い。諸外国で使われている“ZEN”と日本における伝統的な“禅”との逕庭の違いを明らかにし、正しい禅（ZEN）を発信する必要がある。

<大学のブランド（独自色）として打ち出すための研究テーマとして選択した理由>

大学のブランド（独自色）として打ち出すための研究テーマは『**禅と心**』である。

研究テーマの選定は研究活動推進委員会にて審議され、次の選定理由とともに、全学的な優先課題として設定することが確認されている。

- ①駒澤大学には、禅（ZEN）研究の拠点として非常に長い歴史と研究蓄積があること。
- ②駒澤大学には、禅（ZEN）の新たな研究領域を開拓する研究者が、多数在籍していること。
- ③駒澤大学の禅（ZEN）研究ブランドを更に発展させ、禅（ZEN）研究の世界的拠点とすること。

（2）期待される研究成果**<期待される研究成果>**

本事業にて期待される研究成果は、①禅（ZEN）の観点から、**現代人が抱えている心の問題に提言**をすること、②禅（ZEN）の研究者と専門領域が異なる研究者が協力し、**禅（ZEN）の新たな研究領域を開拓**すること、である。新たな研究領域の開拓にあたって、次の4グループを設置する。グループ設定は、「何を」「誰に」「どのようにして伝えるか」を明確にするため、本学の研究蓄積や社会情勢、外部有識者のアドバイス等を元に、研究活動推進委員会にて審議し、承認されている。

- 1) 禅（ZEN）の源流および文化の研究
- 2) 禅（ZEN）による人の体と心の研究
- 3) 禅（ZEN）と社会制度の研究
- 4) 禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業

これらのグループの期待される研究成果は、次のとおりである。

1) 禅（ZEN）の源流および文化の研究

①駒澤大学が1964年に発刊した新纂禅籍目録を更新する。汎世界的な禅籍の情報を集約したデータベースを作成・公開することで、世界の禅（ZEN）研究を牽引する情報発信拠点となる。

②文学や芸能、美術など江戸時代の文化や社会民衆の中にあつた禅（ZEN）に焦点をあて、近代以前における禅（ZEN）文化の影響について明らかにする。禅寺・禅僧における禅（ZEN）と比較検討し、伝統的な日本の禅（ZEN）の再考と発信を行うこと。

2) 禅（ZEN）による人の体と心の研究

①禅（ZEN）による身心への影響を、脳波測定等により科学的に調査すること。

②禅（ZEN）の効用を活かすプログラム（例：企業研修等における禅（ZEN））を開発すること。

③禅（ZEN）の観点から、現代人が抱えている心の問題に提言をすること。

3) 禅 (ZEN) と社会制度の研究

- ① 中世の日本において、禅 (ZEN) が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにすること。
- ② 現代の社会制度に求められるサステナビリティ等の思想的背景に、禅 (ZEN) がどのように活かされるかを検討すること。
- ③ 禅 (ZEN) の観点から、現代人が抱えている心の問題に提言をすること。

4) 禅 (ZEN) の社会貢献・世界発信事業

- ① 正しい禅 (ZEN) の情報について、Webコンテンツを制作し、国内外に向けて発信する。
- ② 禅 (ZEN) セミナー (例: 坐禅体験、企業研修等における禅 (ZEN)) を開き、社会へ貢献する。
- ③ 駒澤大学を拠点とした寺院との連携機能 (ハブ&スポーク) を構築し、本事業の研究成果を各寺院で活かす環境を整備する。
- ④ 2020年の東京オリンピック開催を契機とし、グローバル化された禅 (ZEN) を発信する。
- ⑤ 1) ~ 3) の研究成果の発信をサポートし、大学全体の禅 (ZEN) 研究ブランドを確立する。

研究成果の波及対象は、禅 (ZEN) の研究者のみならず、個人や企業等も対象となる。社会的・経済的意義が非常に高い本事業は、駒澤大学の社会貢献へとつながることとなる。

<目標達成度の測定方法>

目標達成度の測定は、次の**4種類**のKPI (=Key Performance Indicator) を設定し、毎年度測定する。測定結果は自己点検・評価委員会に報告し、目標達成度について審議・検討する。

- ① 【グループ別】研究会・シンポジウム等における研究・調査報告等の本数
- ② 【グループ別】研究成果等の発信実績 (セミナー実施回数等)
- ③ 学生やセミナー参加者等、研究成果を波及させる対象のNPS (=Net Promoter Score)
- ④ ③以外の外部の人々の「認知度」

<自己点検・評価及び外部評価の実施体制>

「3. 事業実施体制」に記載する。

(3) ブランディングの取組

<研究の独自性及び研究を足がかりに打ち出そうとする大学の独自色>

従来にないほどの、さまざまな分野の研究者と協力して禅 (ZEN) の新たな研究領域を開拓することが、研究の独自性であると言える。この禅 (ZEN) 研究を足がかりとし、禅 (ZEN) 研究を社会に還元する研究機関であることが駒澤大学の独自色であることを打ち出す。

<社会的意義を広報する方法>

本事業の社会的意義は、現代人が抱えている心の問題に提言をすることであるため、研究成果の波及対象 (個人や企業、本学学生等) を主なターゲットとして、広報活動を実施する。そのため、平成30年度より禅研究センターを設置し、本事業の広報活動を含む総合的な事務体制を整える。

広報活動は、①Webページの公開、②禅 (ZEN) セミナーやシンポジウム等の開催③国外での発信拠点の整備等を中心として実施する。この取り組みにより、本学の禅 (ZEN) 研究ブランドが国内外で確固不動たる地位を獲得することとなるため、駒澤大学の社会貢献及びブランド強化につながると確信している。

<大学運営へ反映する展望>

禅 (ZEN) 研究を駒澤大学のブランディングにつなげるため、**3つの戦略**を掲げる。

①グローバル化推進

2020年の東京オリンピックを目途とし、駒澤大学を訪れた外国人に対し、禅 (ZEN) プログラムを提供し、海外からの評価を高める。

②禅 (ZEN) プログラムの普及

個人や企業等を対象としたセミナー等で禅 (ZEN) プログラムを普及し、本学の**禅 (ZEN) 研究の広報**に使用する。

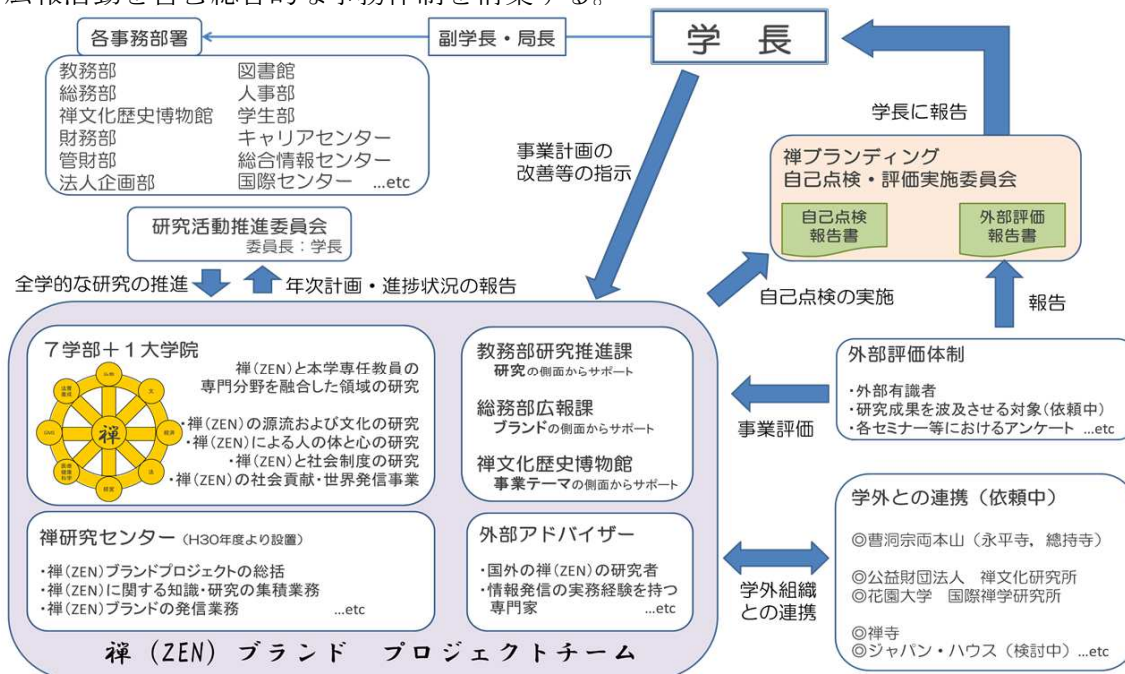
③駒澤大学の学生教育への展開

禅 (ZEN) プログラムを受けた学生は、日本文化を見直すきっかけとなる。グローバル化が進む現代において、日本文化への誇りを持たせることで、駒澤大学生のアイデンティティの形成につなげる。

3. 事業実施体制（1ページ以内）

<学内の実施体制>

本事業については、学長のリーダーシップの下、全学的な事業として実施する。研究の実施に係る全学的な事項を審議する「研究活動推進委員会」（委員長：学長）にて、本事業の実施を決定した。本事業は**禅（ZEN）ブランドプロジェクトチーム**（以下、禅PTという。）を置き、3つの研究テーマと1つのブランド戦略を実施する。また、本事業を所管する組織として「禅研究センター」を新設し、広報活動を含む総合的な事務体制を構築する。



禅（ZEN）ブランドプロジェクト 事業実施体制図

<自己点検・評価体制及び外部評価体制>

◎自己点検・評価体制・・・禅ブランディング自己点検・評価実施委員会を設置している。本事業の目標達成度等を指標とし、事業の進捗状況を確認する。

◎外部評価体制・・・①研究内容について専門的な知見を有する学外者 ②研究成果を波及させる対象より外部評価の承諾を得ている。本事業の外部評価として、**原則年1回、外部評価報告書の提出**を求める。各報告を元に学長が改善点等を指摘し、年度計画に反映することで、PDCAサイクルが構築されている。



毎年3月頃	自己点検・評価報告書及び外部評価報告書を作成し、禅ブランディング自己点検・評価実施委員会にて審議する。	Check
4月頃	禅ブランディング自己点検・評価実施委員会より、学長が事業の進捗状況の報告等を受け、年度計画や事業の改善点等について禅PTに指摘する。	Act
5月頃	学長からの指摘事項をふまえて、禅PTが年度計画を策定する。	Plan
6月頃	禅PTは研究活動推進委員会に、前年度事業の進捗状況及び当該年度の計画を報告し、年度計画を元に実行する。	Do

<学外との連携体制>（各機関に依頼中）

◎曹洞宗との連携

日本における禅宗の一つであり、本学の宗派である曹洞宗の両本山（永平寺、總持寺）と連携する。曹洞禅の側面からアドバイス等をいただき、研究成果の検討や普及等に活用する。

◎臨済宗との連携

日本における禅宗の一つである、臨済宗の研究機関（公益財団法人禅文化研究所、花園大学国際禅学研究所）と連携する。臨済禅の側面からアドバイスをいただき、曹洞禅との違いをふまえて研究を行う。

◎禅寺との連携

禅寺は、現代において禅（ZEN）の実践が行われている場所であり、地域社会へ向けて禅（ZEN）に関するセミナー等を開催するなど、禅（ZEN）の発信についてノウハウを蓄積している。本事業の研究成果を地域社会へ発信する際に、成果公開の場として活用させていただくなど、連携体制の構築を進めている。

◎ジャパン・ハウスとの連携（検討中）

外務省が設置するジャパン・ハウスと連携し、日本の伝統である禅（ZEN）を発信する。ジャパン・ハウスLA副館長と連携し、本事業の国外での発信拠点として活用したいと考えている。

4. 年次計画（2ページ以内）

平成28年度	
目標	<p>平成28年度は研究組織の体制整備や禅（ZEN）セミナーに必要な備品の購入、本事業の広報ホームページの作成等の事業の実施体制の基盤を作る。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の整理や実地調査を中心に行い、平成29年度以降の研究の基盤を作ること。 ・備品の購入、広報ホームページや禅（ZEN）に関するWebコンテンツの作成等を行うこと。 ・平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。
実施計画	<p>◎禅（ZEN）の源流および文化の研究 文学や芸能、美術など江戸時代の文化や社会民衆の中にあつた禅（ZEN）に焦点をあて、近代以前における禅（ZEN）文化の影響について明らかにするため、本学図書館所蔵の禅籍資料や近世の文学作品等を主な対象とする研究を行う。また、新纂禅籍目録の更新に向けた作業を開始する。必要に応じて、国内外への実地調査を行う。</p> <p>◎禅（ZEN）による人の体と心の研究 禅（ZEN）を科学的に検証するため、先行研究の整理と実地調査を行う。国内寺院や修行道場における禅瞑想法、海外におけるマインドフルネス（メソッド化した自己啓発、心理療法として用いる瞑想）等を対象とする。</p> <p>◎禅（ZEN）と社会制度の研究 中世の日本において、禅（ZEN）が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにするため、「林下」や「公案」の制度背景、戦国大名や地方武士に受容された社会背景等を主な対象とする研究を行う。</p> <p>◎禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業 禅（ZEN）セミナーに必要な備品の購入や本事業の広報ホームページの作成等、平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。</p> <p><目標達成度の測定方法> 「2. 事業内容（2）期待される研究成果」に記載のとおり。</p>
平成29年度	
目標	<p>平成29年度は前年度の研究経過をふまえ、学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅研究センターの設置準備や社会への広報活動を行う。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳波測定等による科学的な調査を実施する等、本格的な調査研究を実施すること。 ・禅研究センター設置準備（改修工事や組織体制の整備）、社会への広報活動（ホームページの活用、セミナー等の開催）を行うこと。
実施計画	<p>◎禅（ZEN）の源流および文化の研究 江戸時代を中心に禅（ZEN）の源流・文化について、学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を行う。</p> <p>◎禅（ZEN）による人の体と心の研究 禅瞑想法を用いた予備実験を実施する。マインドフルネス及び坐禅による身心への影響を質問紙法、インタビュー法を用いて調査する。必要に応じて、近赤外線脳機能イメージング(NIRS)または核磁気共鳴機能画像法(fMRI)等の科学的な調査を実施する。</p> <p>◎禅（ZEN）と社会制度の研究 中世から近世の禅（ZEN）について、学外の連携機関と交流を深めつつ、社会制度の観点から本格的な調査研究を行う。</p> <p>◎禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業 禅研究センターの設置に係る準備（改修工事や組織体制整備）を行う。また、禅（ZEN）を認知してもらおう活動（Webコンテンツの公開や禅（ZEN）のセミナー、体験会等）を実施する等、社会への広報活動を行う。</p> <p><目標達成度の測定方法> 「2. 事業内容（2）期待される研究成果」に記載のとおり。</p>
平成30年度	
目標	<p>平成30年度はシンポジウムを開催し、研究成果の公表を行う。また、禅研究センターでは、専任のURAを配置し、研究成果の発信について寺院と連携体制を構築する。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムを開催し、各グループの研究成果を公表すること。 ・禅研究センターを設置し、専任のURAを配置する。研究成果の社会発信に向けて、曹洞宗両本山や寺院等との連携体制を構築すること。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施計画</p>	<p>◎禅（ZEN）の源流および文化の研究 本学図書館所蔵の禅籍資料，中世から江戸初期の切り紙及び本参資料DBを国内外に公開する。</p> <p>◎禅（ZEN）による人の体と心の研究 これまでの研究成果を元に、禅（ZEN）プログラム（個人を対象とした心理療法や企業を対象としたセミナープログラム等）を検討・構築し、シンポジウムにて発表する。</p> <p>◎禅（ZEN）と社会制度の研究 これまでの研究成果を元に、現代の社会制度への応用について検討する。</p> <p>◎禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業 禅研究センターを設置し、研究支援体制整備のための専任のURAを4名配置する。研究成果の発表のため、シンポジウムを開催する。また、平成31年度以降に実施する、研究成果の社会発信にむけて、曹洞宗両本山や寺院等と連携体制を構築する。</p> <p><目標達成度の測定方法> 「2. 事業内容（2）期待される研究成果」に記載のとおり。</p>
	<p>平成31年度</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目標</p>	<p>平成31年度は研究成果の波及対象に対して、成果の波及や実践を行う。また、ジャパン・ハウスとの連携体制の構築を行う。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の波及対象に対して、成果の波及や実践を行うこと。 ・社会への広報活動、ジャパン・ハウスとの連携体制の構築すること。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施計画</p>	<p>◎禅（ZEN）の源流および文化の研究 国内外の禅籍分類目録の編集を行う。</p> <p>◎禅（ZEN）による人の体と心の研究 ・個人や企業を対象に禅（ZEN）プログラムを実施する。禅（ZEN）プログラムは、駒澤大学のみならず、曹洞宗両本山や連携する寺院等においても開催し、広く社会へ普及するよう努める。 「②禅（ZEN）プログラムの普及」 ・本学の学生教育の一貫として、禅（ZEN）プログラムを実施し、駒澤大学生のアイデンティティの形成につなげる。「③駒澤大学の学生教育への展開」</p> <p>◎禅（ZEN）と社会制度の研究 研究成果を博物館等で展示する。また、現代人が抱えている心の問題について検討する。</p> <p>◎禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業 曹洞宗両本山や連携寺院と協力し、禅（ZEN）プログラムを実施する。また、研究成果実践の海外拠点とすべく、ジャパン・ハウスと連携体制を構築する。</p> <p><目標達成度の測定方法> 「2. 事業内容（2）期待される研究成果」に記載のとおり。</p>
	<p>平成32年度</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目標</p>	<p>平成32年度は国際シンポジウムを開催し、本事業の研究成果を全世界に発信する。また、ジャパン・ハウスと連携し、禅（ZEN）の海外発信拠点を整備する。</p> <p>本年度をもって駒澤大学のブランディング戦略である、「①グローバル化推進」「②禅（ZEN）プログラムの普及」「③駒澤大学の学生教育への展開」を達成する。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウムを開催し、研究成果を全世界に発信すること。 ・ジャパン・ハウスと連携し、禅（ZEN）の海外発信拠点を整備すること。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施計画</p>	<p>◎禅（ZEN）の源流および文化の研究 国際シンポジウムにおいて日本の伝統的な禅（ZEN）等の得られた研究成果を発表する。また、平成28年度より着手している国内外の禅籍分類目録を公開する。</p> <p>◎禅（ZEN）による人の体と心の研究 開発したセミナーや講座等のプログラムを実践し、本学の教育や社会に波及させる。また、現代人が抱えている心の問題について、研究成果を発表する。</p> <p>◎禅（ZEN）と社会制度の研究 現代人が抱えている心の問題について、研究成果を発表する。</p> <p>◎禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業 ・複数言語で閲覧可能なWeb上のコンテンツを作成し、国内外へ広く研究成果等を公開する。 ・駒澤大学を訪れた外国人を対象とした、禅（ZEN）プログラムを提供する環境を整備する。 「①グローバル化推進」 ・外務省が設置するジャパン・ハウスと連携し、得られた研究成果等を発信する国外での発信拠点として活用する。</p> <p><目標達成度の測定方法> 「2. 事業内容（2）期待される研究成果」に記載のとおり。</p>